区分・種別	重要文化財(建造物)		
名　　称	石手寺訶梨帝母天堂（いしてじかりていもてんどう）　1棟		
所　在　地	松山市石手		
所　有　者	石手寺	管 理　団 体	
指定年月日	昭和28年3月31日		
解　　説	小社は、三重塔（重要文化財）の奥の一隅にある。安産祈願の堂として親しまれている。一間社流見世棚造の小堂で、屋根は檜皮葺（ひわだぶき）である。妻飾りは猪（い）の目懸魚（めげぎょ）、組物等にすぐれた技法がうかがえ、中備の蟇股（かえるまた）も二王門（国宝）のそれと同じく、優秀な出来栄えである。 本堂（重要文化財）や三重塔（重要文化財）などの再建とほぼ同じ鎌倉時代のものと考えられ、県下の神社建築では最古級に属するものである。		